

令和5年度NO9

ながおかだいさんしょうがっこうとしよ  
長岡第三小学校図書だより



## 本のひろば

新しい年が明けました。令和6年の干支は辰年ですが、動物にあてはめると竜です。竜は十二支の中で唯一の想像上の動物なので、実際の竜を見ることは出来ません。けれども、竜の姿を表現した言葉ならあります。それは「竜に九似あり」という言葉です。「角は鹿、頭はラクダに、目は鬼、首は蛇、腹は蟹(蟹気楼を作りだすといわれる伝説の生物)、鱗は鯉、爪は鷹、手は虎、耳は牛」竜の体のそれぞれの部分が九つの動物の一部分に似ているということを示しています。どうですか？蟹は置いておくとして、それぞれの動物を思い浮かべてみて似ていると思いますか？こうした、竜の様子から竜にまつわる言葉やことわざがたくさんあります。図書室の白色の棚(8類)には、それらのことわざ等を調べることが出来る本があります。興味のある人はぜひ調べてみて下さいね。

そこで、今月は竜が出てくる本をいくつか紹介します。

作/秋山 とも子 童心社

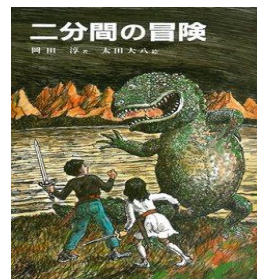


4年に一度、巨大な龍があらわれる町があります。長さ36メートル、重さ3000キロの龍が、300人も男たちにかつがれて町をねり歩きます。埼玉県鶴ヶ島市脚折という町で昔から受け継がれている行事です。大きな龍が作られていく様子から始まりラストは、そうなんだ…と呟いてしまうお話です。



作/富安 陽子 国土社

生まれたばかりのくいしんぼうの小さなリョウは、楽しい歌を歌いながら食べ物を探していきます。何を食べてもいいのかわからないちいさなりョウ。さ~冒険のはじまりです。



作/岡田 淳 偕成社

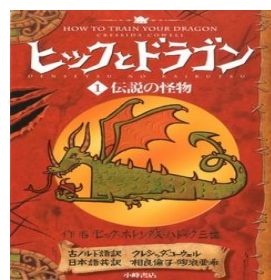


校庭で話せる黒ネコに出会った主人公の悟。そのネコとやりとりしているうちに不思議な世界へ。そこは恐ろしい竜が支配する場所。竜のいけにえになる為に竜の館に行かないといけないなんて…戦うしかないよね！



作/富安 陽子 ポプラ社

ぼくらのおじいちゃんが竜の巣に行った時の話。竜の巣といえば、岩場の洞窟と思いませんか？ところが意外な場所なんです。出会ったカエルの知恵を借りて無事に竜の巣から脱出できたおじいちゃん。竜とカエルたちのやり取りに思わず、くすっと笑ってしまいます。



作/クレシッタ・コーウェル 小峰書店

海賊の息子なのにまるでヒーローとは言えないヒックと仲良しの弱々しいドラゴンのトゥースレスが、島に現れた怪物ドラゴンと戦うお話。弱くても二人なら大丈夫！

## あたらしい本のしょうかい



作/たかどの ほうこ 童心社

作/赤羽 じゅんこ 偕成社



